新出の村松村「河村検地帳」について

資料№1

　名　　　称：河村検地帳

　員　　　数：１冊

　種　　　別：有形（古文書）

所　在　地：長岡市長倉西町458番地7 長岡市歴史文書館（寄託資料）

　所　有　者：個人

　概　　　要：江戸時代の長岡藩上組の割元をつとめた古志郡村松村（現長岡市村松町）の金子家伝来の慶長２年（1597）の「河村検地帳」である。

「河村検地帳」は、慶長２年に上杉景勝の執政・直江兼続が家臣（与板衆）の

河村彦左衛門尉を検地奉行として行った検地の結果を記録したものである。

長岡市域に関わる「河村検地帳」としては、①安禅寺文書（安禅寺所蔵、長岡

市歴史文書館寄託）中の10冊、②京都大学法学部所蔵文書（六日市村検地帳）、

③年友村（現寺泊地域）の五十嵐家文書（個人蔵、寺泊支所寄託）中の１冊、

④大地村（同）の山田家文書（個人蔵）中の１冊、⑤小豆曽根村（同）の竹内

家文書（個人蔵）中の１冊が知られ、①③④は長岡市指定文化財（有形文化財

（古文書））である。

本資料は、令和３年（2021）10月に所蔵者から相談を受けた長岡市歴史文書

館（当時の名称は長岡市立中央図書館文書資料室）が所在を確認。令和６年

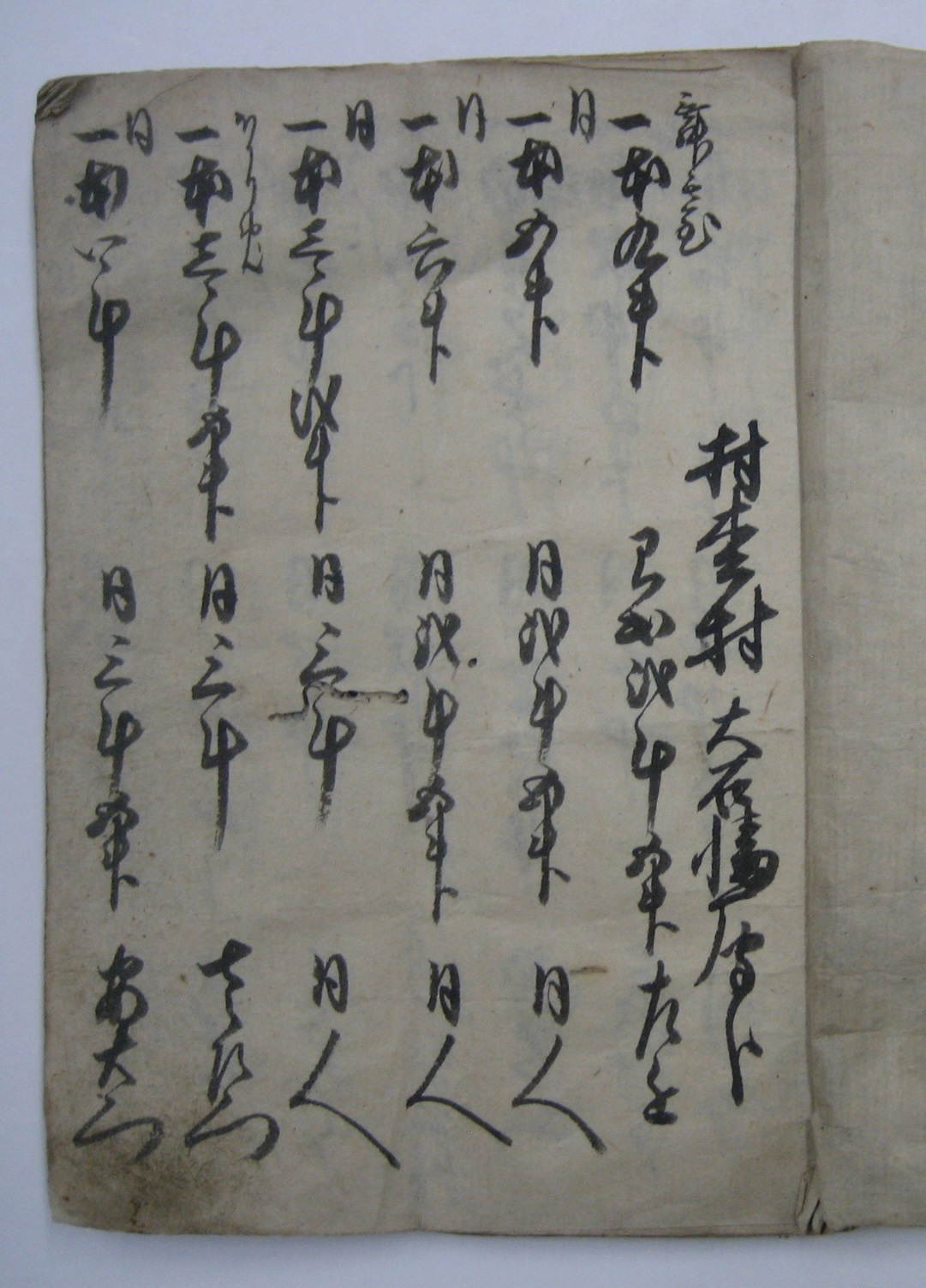
６月開催の同館の常設展「直江兼続の時代の検地帳」で展示された。

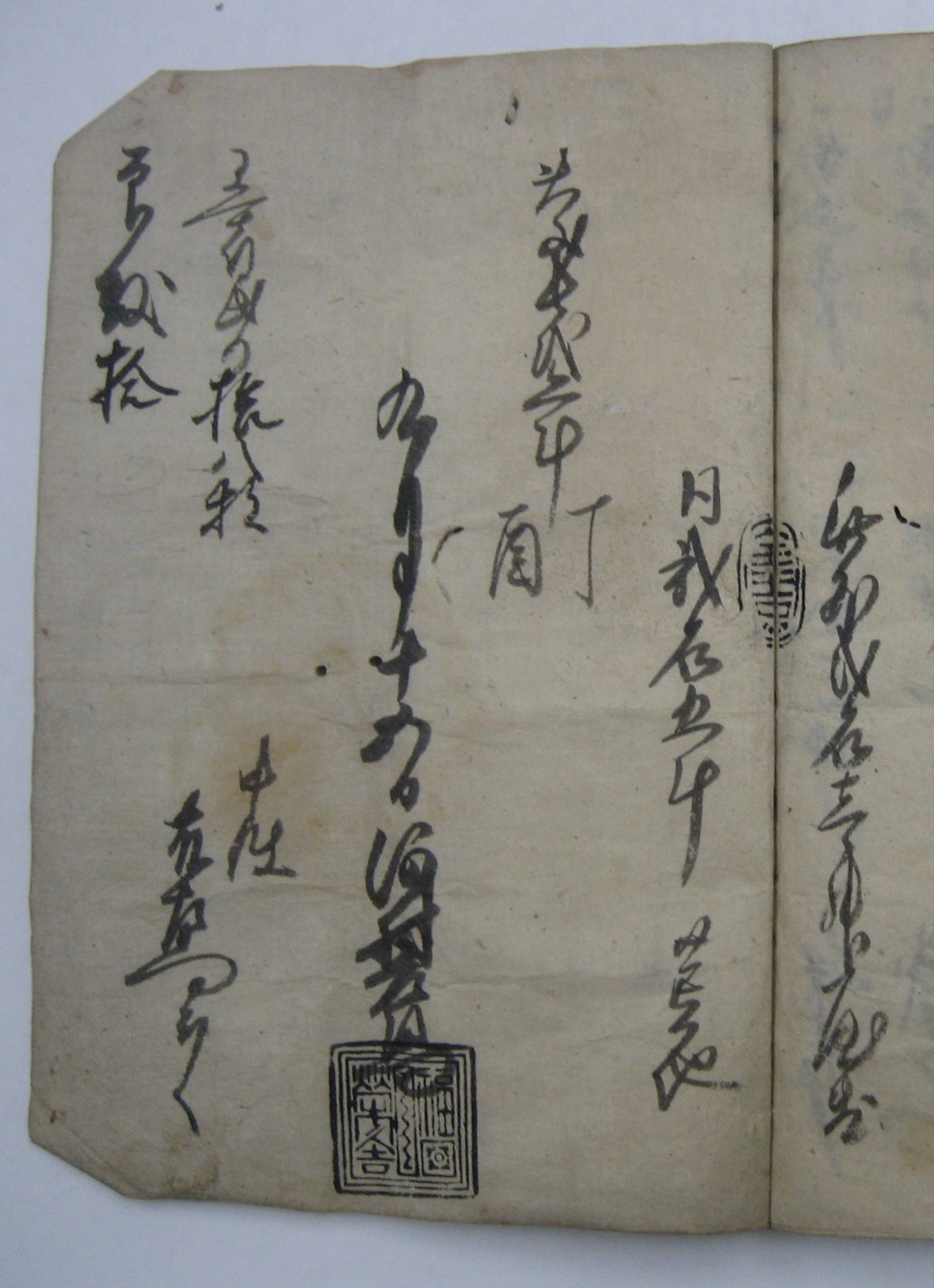
長岡市史編集委員会中世史部会は、「河村検地帳」をはじめとする中世末から

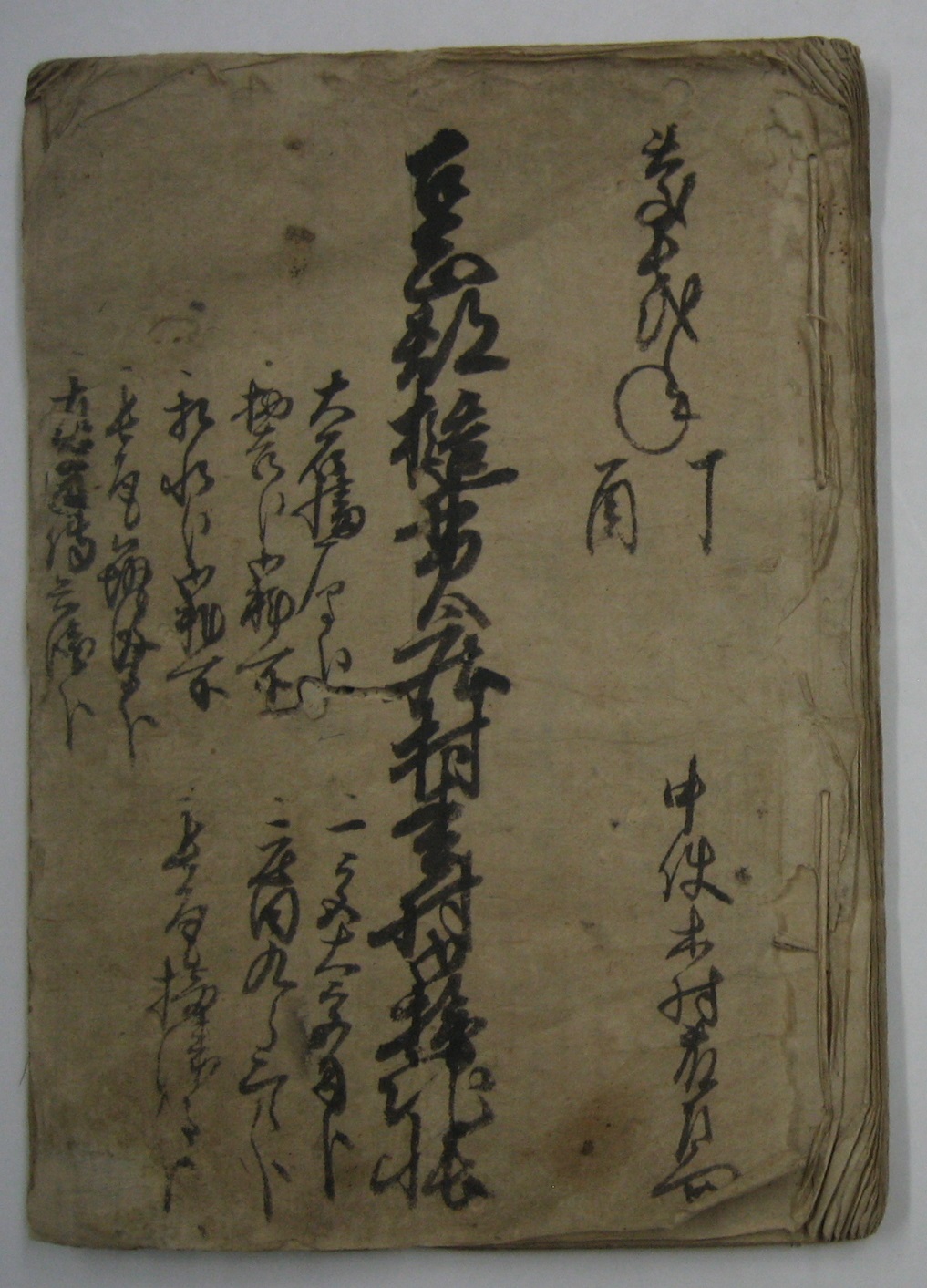
近世初期の検地帳の分析をとおして、中世の村の復元的研究を試みている。

本資料は、『新潟県史』、『長岡市史』などの自治体史に未収録の新出資料であ

るため、市域の中世史研究に新たな視角が加わる可能性がある。







※主な参考文献

長岡市史双書№10『村は北谷にあったー長岡市村松町の中世を歩く－』（平成２年）、同№18『検地

帳に中世を読む』（平成４年）、『寺泊町史』資料編１（平成３年）、『長岡市史』資料編２（平成６

年）、同通史編上巻（平成８年）、『長岡の文化財』（平成26年）、田中聡「河村彦左衛門尉とは何者

か」『日本歴史』855（吉川弘文館、令和元年）